

解答欄が足りない場合は裏面に記すこと

2020年5月13日朝刊

藤枝の大茶樹で手摘み作業に取り組む参加者＝藤枝市瀬戸ノ谷



①静岡県がお茶の産地となった歴史的経緯を調べ、緑茶需要減の現在における経済政策を考察せよ。

②茶葉を手揉する効果と文化の継承について考察せよ。

新芽 丁寧に摘み取り

高齢者に「縁起物」贈る

平口さんは「春先も温かく、良い茶が育った」と話した。大茶樹の生葉は製茶した後、「長寿の香り」と名付け、地域の高齢者に縁起物として贈呈する予定。

（藤枝支局・寺田将人）

茶農家の平口好三さん（71）方の敷地内にある大茶樹は平口さんの先祖が種をまいたと伝わる。大茶樹は高さが約4.5メートル、周囲は約33メートル。参加者約30人が新芽を一芯二葉、一芯三葉で摘み取った。枝葉の中に設置された足場や脚立を使い、生葉約15キロを収穫した。

樹齢300年以上で県内最古とされる藤枝市瀬戸ノ谷の「藤枝の大茶樹」で12日、今期の一番茶の収穫が行われた。市茶手揉保存会のメンバーや市職員らが参加し、手摘み作業に汗を流した。

樹齢300年「藤枝の大茶樹」

③藤枝市瀬戸ノ谷はレストランやカフェ、水車などで山間地域の振興に力を入れている。自分が住んでいる地域の山間振興策と比較し、現実味が乏しくとも高校生ならではのユニークな経済発展のアイデアを表出せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石克巳（静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝地域振興学、経営学、経済学に関する問題、②＝栄養学、文化学に関する問題、③＝地方行政学、地域振興学、経済学、経営学に関する問題